



2024年9月26日

各 位

会 社 名 株式会社コシダカホールディングス
代表者名 代表取締役社長 腰 高 博
(コード番号：2157 東証プライム)
問 合 せ 先 専 務 取 締 役 土 井 義 人
グ ル ー プ C F 管 掌
電 話 0 5 7 0 - 6 6 6 - 4 2 5

事業活動で使用する電力の 再生可能エネルギー100%化を目指す試みについて

株式会社コシダカホールディングス（東京本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：腰高博、以下コシダカグループ）は、2050年のカーボンニュートラル※1 実現に向けて、事業活動で使用する電力の100%再生可能エネルギー化を目指してまいります。

コシダカグループは、環境（Environment）、社会（Social）、ガバナンス（Governance）に配慮したESG経営を掲げており、気候変動問題における課題解決においても先進的に取り組みを行ってまいります。本年度はその取り組みの一環として、非化石証書※2 を活用することにより、コシダカグループの事業活動における使用電力を実質再生可能エネルギー100%化し、さらに、より世の中への貢献度を高めるために、新設での太陽光発電システムの導入を検討しております。なお、2030年度までに自社で使用する電力の30%以上を追加性のある再生可能エネルギー※3 で調達することを目指していきます。

2050年までに「Scope3」を含めたサプライチェーン全体の温室効果ガスの排出量を実質ゼロとする「カーボンニュートラル」をコシダカグループ全体で推進していきます。

なお、社会貢献推進において、コスト上昇が見込まれますが、現時点において、今後の業績に与える影響は軽微なものを見込んでおります。

これからもコシダカグループは、脱炭素社会の実現に向けた取り組みをさらに加速して持続可能な社会づくりに貢献します。

[注]

- ※1 温室効果ガスの排出量を森林などによる吸収量や CO₂ 回収技術などによる回収量と差し引きでゼロにすること。
- ※2 化石燃料を使用しない非化石電源により発電された環境にやさしい電力であることを証書化したもの。
- ※3 自然エネルギーの発電設備を新設して、既設の火力発電や原子力発電を代替するエネルギー

(参考情報) これまでの脱炭素社会に向けた取り組み

- ✓ 省エネルギー設備の導入…店舗で使用する冷蔵・冷凍設備や空調設備を電力消費量の少ない高効率な設備への変更や店舗照明を LED 化したりすることで、CO₂ の削減に努めています。
- ✓ プラスチック使用量の削減…店舗で使用するストローの常時提供を廃止し、プラスチック使用量の削減に取り組んでいます。